

愛知県基幹的広域防災拠点事業に伴う

# 青山神明遺跡地元説明会資料

令和8年2月14日

令和7年度の愛知県基幹的広域防災拠点整備事業に伴う発掘調査は5月から  
行っており、愛知県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施しています。

今年度第2回目の説明会では、前回(前年11月8日)で紹介しなかった調査区の中  
で25P区とこれに隣接する25J区の一部をご覧ください。また、既に埋め戻さ  
れた他の調査区の調査成果も、合わせて紹介します。主に古墳時代から江戸時代  
の遺構と遺物が確認されています。

編集  
配布



公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団  
愛知県埋蔵文化財センター  
〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24  
<http://www.maibun.com>

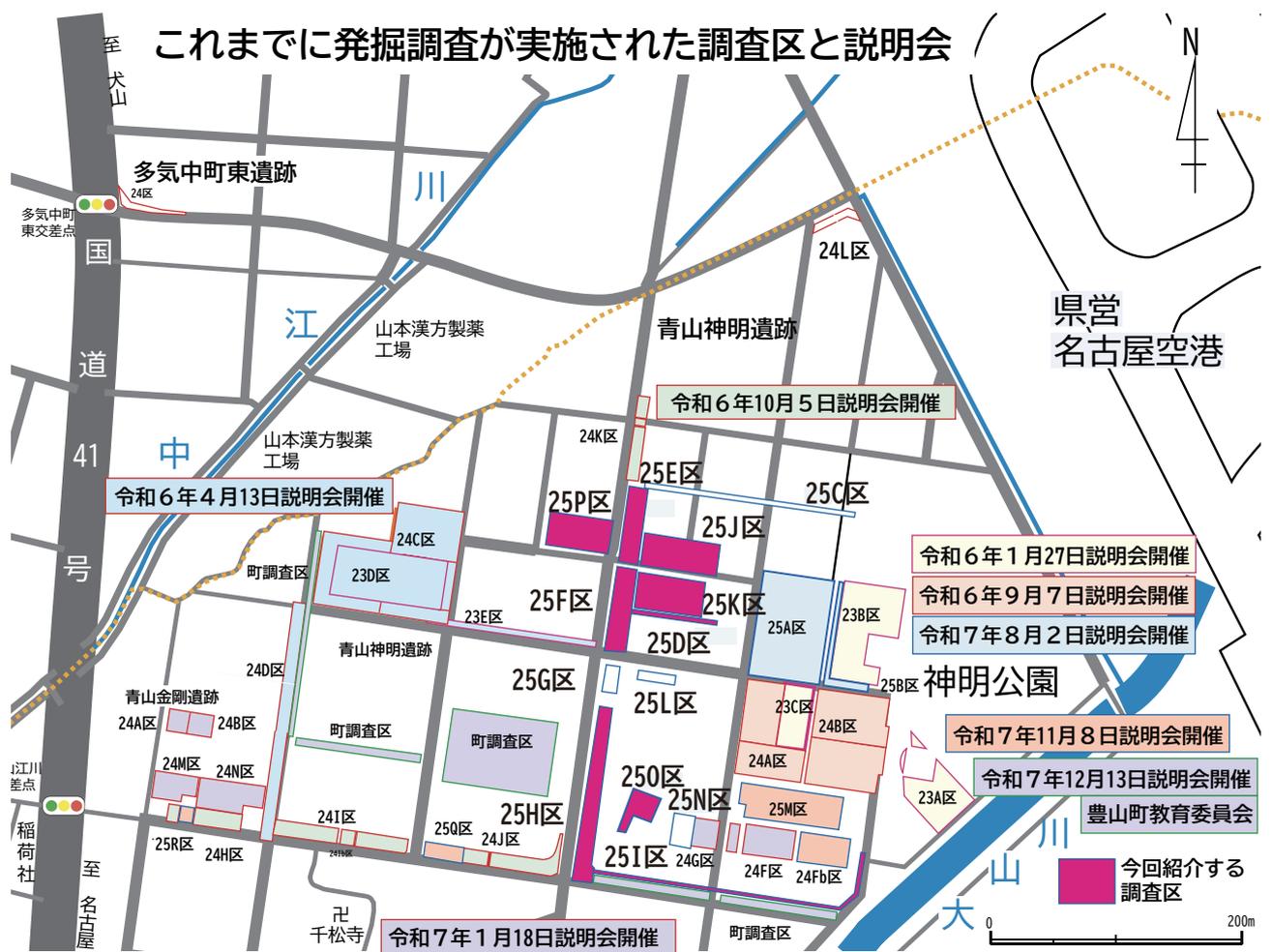
調査  
支援

国際文化財株式会社

# 青山神明遺跡の発掘調査について

あおやましんめい  
 青山神明遺跡は、西春日井郡豊山町大字青山字神明を中心に存在する遺跡で、大規模な発掘調査は令和5年6月から愛知県埋蔵文化財センターにより開始され、今年度までにおよそ40ヶ所（調査区）で行われてきました。その調査成果は、令和6年1月27日、4月13日、9月7日、10月5日、令和7年1月18日、8月2日、11月8日の7回にわたり地元説明会が開催され公開されています。また、豊山町教育委員会による発掘調査についても令和7年12月13日に現地説明会が行われ、その調査成果が注目されました。今回の説明会で主に紹介するのは、遺跡の北部に相当する25P区で、25J区の一部も合わせてご覧いただきます。また、現地を見ていただくことはできませんが、25D・E・F・H・I・K・O区の調査成果についても、本資料にて紹介いたします。

これまでの青山神明遺跡の発掘調査では、縄文時代から江戸時代までの遺構と遺物が発見されました。一番古い遺物は縄文時代草創期（約15,000年前）の石器（25A区出土）がありますが、これまでの調査成果で中心となるものは、古墳時代から中世（鎌倉・室町時代）で、多くの調査区で建物跡や溝や井戸が見つっています。古墳時代から奈良時代では竪穴建物跡が、奈良時代から室町時代では掘立柱建物跡などが多く検出されました。江戸時代以降では、大溝や道路状遺構などの遺構が発見されました。



# 25F 区の発掘調査成果

25F 区で検出された主な遺構・遺物は古墳時代、中世および近世です。古墳時代の遺構としては東西方向の溝 1 条が検出されています。この溝は西側の 23E 区で検出されており、古墳時代前半の土師器が比較的まとまって出土しています。中世の遺構としては、掘立柱建物の柱穴、溝 1 条および井戸 2 基が検出され、鎌倉時代以降の山茶碗が出土しています。近世の遺構としては東西方向の溝 6 条、南北方向の溝 2 条が検出されています。



写真① F 区全景（東より）



写真② 掘立柱建物（中世）



写真③ 溝（古墳時代）



写真④ 土師器出土状態  
（古墳時代）



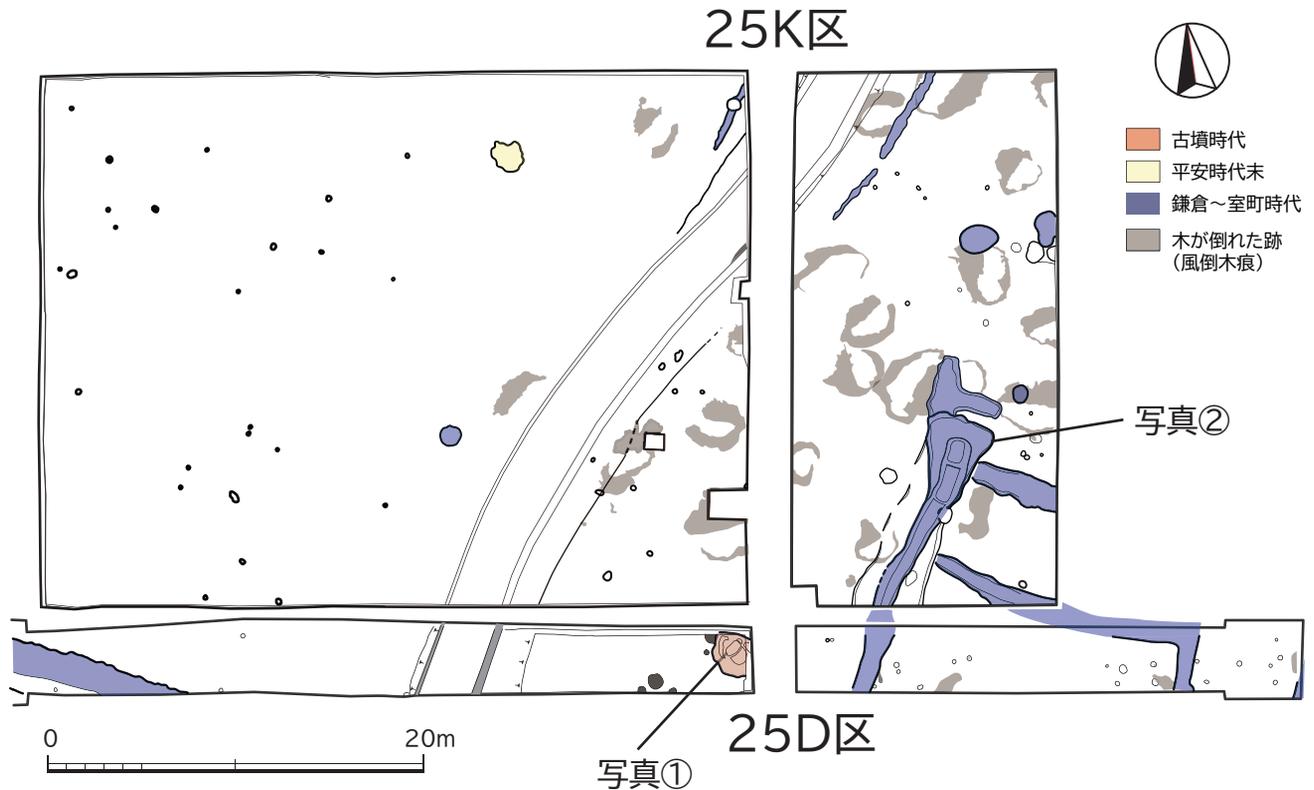
写真⑤ 溝（中世）



写真⑥ 井戸（中世）

- 古墳時代の溝
- 中世の溝
- 近世以降の溝
- 中世の井戸

# 25D区・25K区の発掘調査成果



写真① 古墳時代の井戸

25D区とK区は、柱穴が少なく、溝や井戸が分布するエリアです。近辺では水が湧く深さが最も浅く、遺構もそれに見合った内容となっています。

25D区で見つかった古墳時代の井戸は、今のところ青山神明遺跡で最も古い時期のものであります。

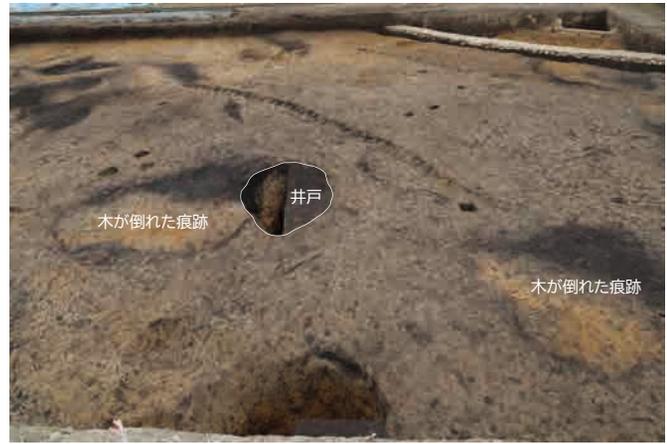


写真② 溝のスタート地点(鎌倉・室町時代)

また、青山神明遺跡では溝が無数に見つかるのが大きな特徴ですが、25K区ではそのスタート地点が見つかりました。スタート地点では水が湧く深さまで池状に掘りこみ、溜まった水を溝に流し込む構造となっています。灌漑用水路として機能していたのでしょうか。



写真③ 25K区東側全景



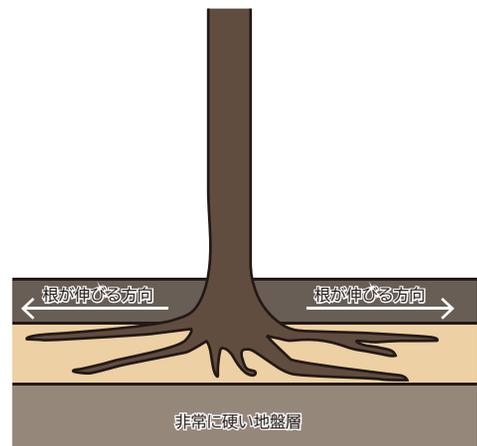
写真④ 木が倒れた痕跡(風倒木痕)  
ふうとうぼくこん



写真⑤ 木が倒れた痕跡(風倒木痕)の断面



写真⑥ 穴の底に見える硬い地盤層



木の根の伸びる方向 模式図

25K区では、木が倒れた痕跡がたくさん見つかりました。木の根が地面の土を掘り起こして倒れ、その隙間に別の土が入り込んだ結果、黒い縁取りができています。25K区でこうした痕跡がたくさん見つかったのは、地下の環境が大きく関係しています。地下の浅いところに非常に硬い地盤層があって、それを突き抜けて根を張ることができず、木が強風などの横方向の力に対して踏ん張りがきかない状況にあったためです。

なお、遺構としての井戸は、この痕跡を切りこんで作られています。したがって、人がこの地を開拓する以前は、木が生い茂っていた環境が想像できます。

# 25E区・25P区の発掘調査成果

25E区と25P区で検出された主な遺構・遺物は古墳時代、奈良時代、平安時代、中世の4時期です。

古墳時代の遺構としては主に<sup>しゅうこういこう</sup> 竪穴建物7棟、井戸1基、土坑が検出されています。E区では溝が方形に巡る周溝遺構が確認されています。奈良時代の遺構としては<sup>たてあなじょういこう</sup> 竪穴建物5棟、掘立柱建物4棟、井戸3基が検出されています。竪穴建物はE区で平面が方形に近いものが検出されています。掘立柱建物は<sup>しゅうちゅう</sup> 総柱建物がE区で3棟、P区で1棟が確認されています。いずれも2×3間で長軸が南北方向、東西方向のものが各2棟です。井戸はE区で1棟、P区で2棟が検出されています。E区の井戸は平面円形で直径1.6m、深さ1m程度です。平安時代の遺構としてはP区で井戸3基が検出されています。

中世の遺構としては柱穴群、土坑群、<sup>たてあなじょういこう</sup> 竪穴状遺構、井戸、溝、周溝遺構が検出されています。掘立柱建物の柱穴はP区では数百基あり、多くは中世の集落の建物を構成すると推定されます。P区で検出された竪穴状遺構は住居の可能性のある半地下式の建物です。3基検出され、大きい方では長軸が4.8m、幅2.8m、深さが20cmで平面が方形に近い形態です。溝はP区で南北方向の溝4条、E区で東西方向の溝5条が検出されています。井戸はP区で6基確認されています。P区では溝が環状に巡る周溝遺構が1基検出されています。また、中世以降の遺構と推定され、長軸が1mから数mの大ききで深さ20cm程度の大形土坑が検出されています。平面が方形の遺構が多く、円形、不定形のものがあります。

その他の時期の遺構としては近世後半以降の時期の溝2条が検出されています。東側のやや幅の広い溝は近代まで機能していたと推定されます。



写真⑨ E区全景（東より）



写真① E区 古墳時代 土師器出土状況



写真② E区 井戸（古墳時代）



写真③ E区 竪穴建物（古墳時代）



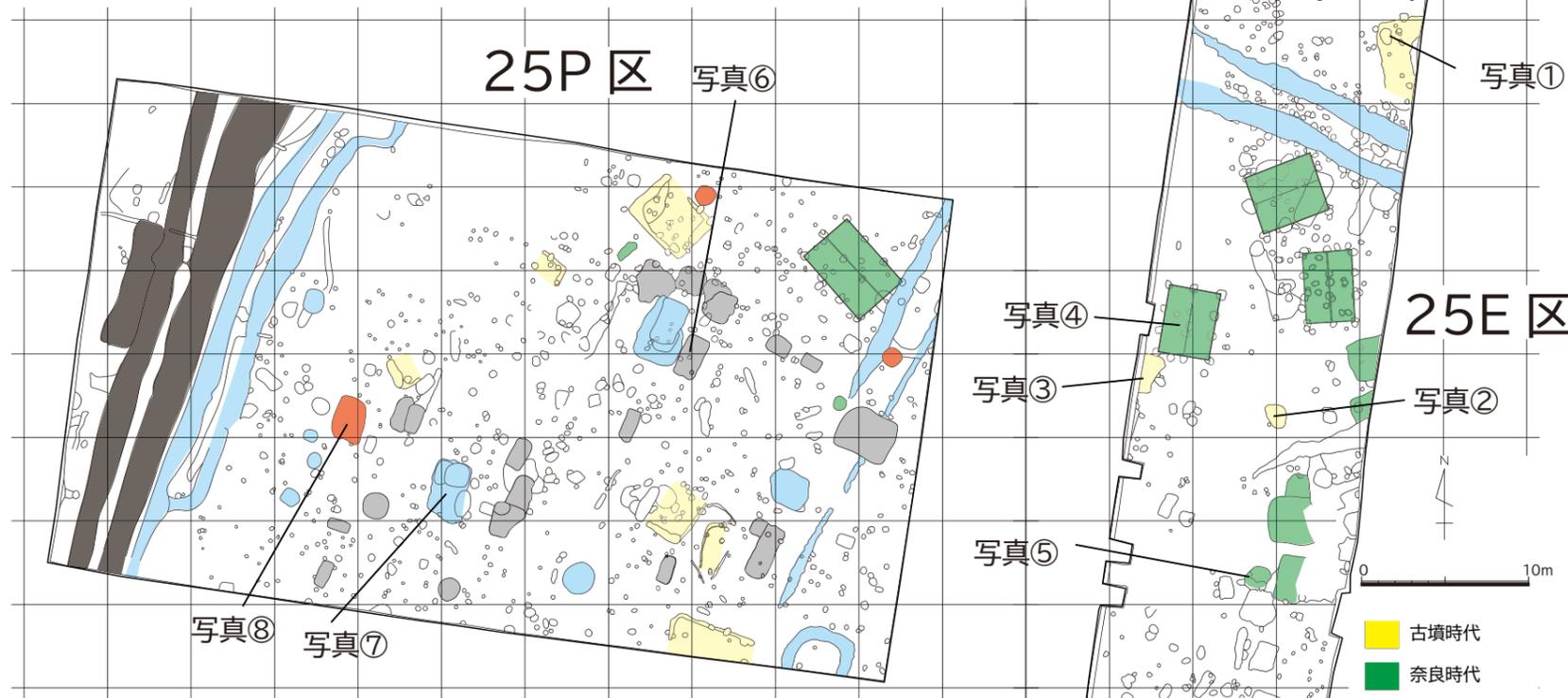
写真④ E区 掘立柱建物（奈良時代）



写真⑧ P区 井戸（平安時代）



写真⑦ P区 竪穴状遺構（中世）

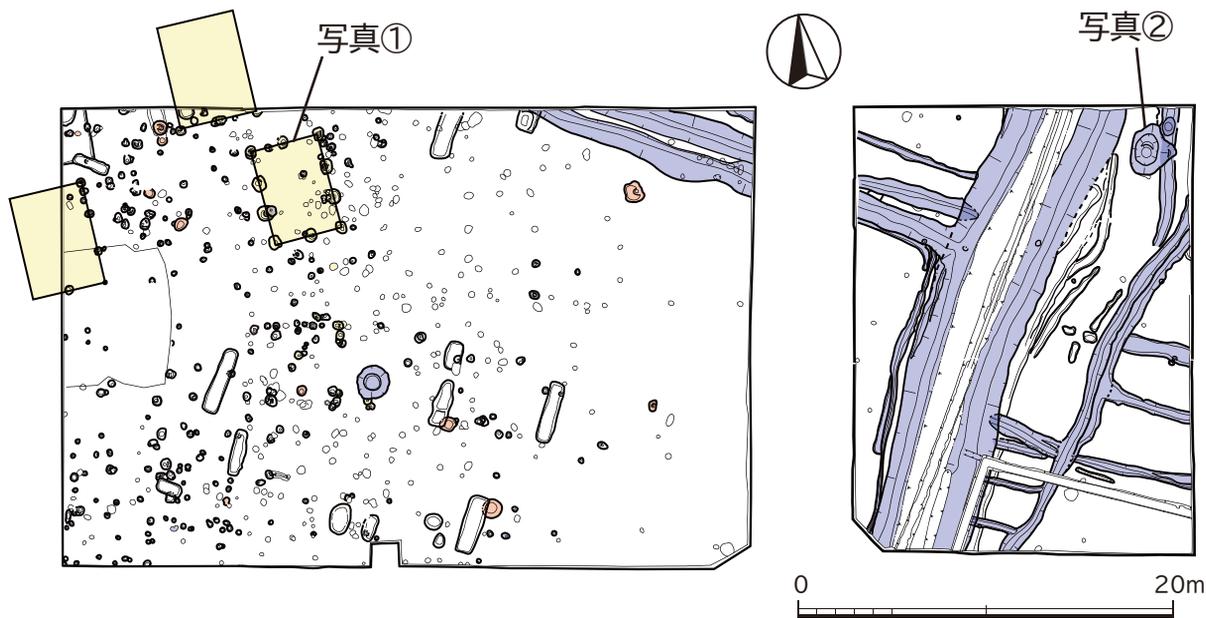


写真⑥ P区 土坑（中世以降）



写真⑤ E区 井戸（奈良時代）

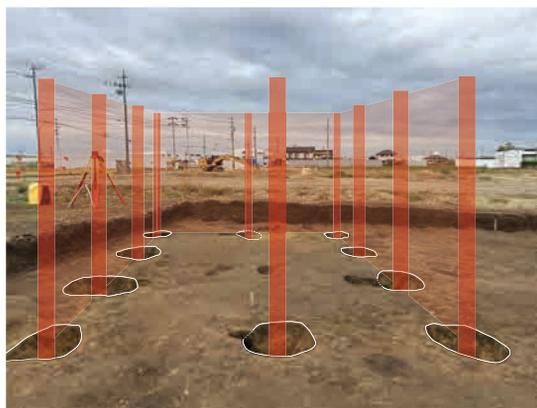
# 25J区の発掘調査成果



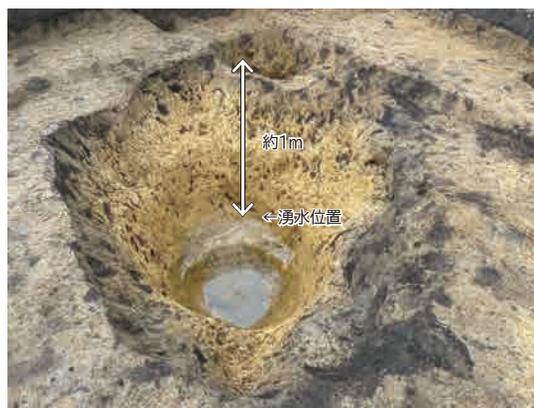
- ・柱穴が密集するエリア
- ・古墳時代や飛鳥・奈良時代中心
- ・湧水位置まで深め

- 古墳時代
- 飛鳥～奈良時代
- 鎌倉～江戸時代

- ・溝や井戸が分布するエリア
- ・鎌倉から室町時代中心
- ・湧水位置まで浅め



写真① 飛鳥・奈良時代の掘立柱建物跡



写真② 鎌倉時代の井戸

25J区の調査では、西側と東側で遺跡の内容が大きく異なる様子が確認できました。西側では飛鳥・奈良時代の掘立柱建物を始めとして、建物の柱穴が密集しています。また、古墳時代の土器が出土する浅い穴もあります。

東側は柱穴が極端に少なくなり、かわりに鎌倉時代以降の井戸や溝が見つかります。いずれも水に関わる遺構です。このあたりは、あまり深く掘らなくても水が湧くので、取水や用水に適した土地条件であったことがわかります。南北方向の溝は、少しずつ位置をずらしながら長い期間使われ続け、最終的には昭和20年代に道路の側溝として踏襲されました。



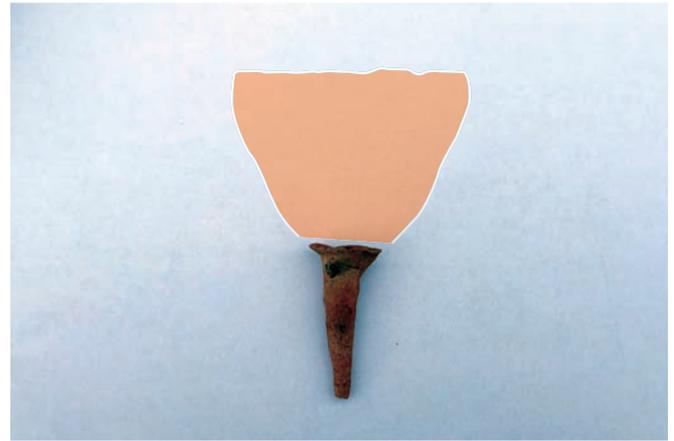
写真③ 古墳時代の土師器が出土した状況



写真④ 井戸から出土した土師器高坏



写真⑤ 粘土の塊が出土した状況(飛鳥・奈良時代)



写真⑥ 柱穴より出土した製塩土器(飛鳥・奈良時代)



写真⑦ 柱穴に捨てられた山茶碗の小皿



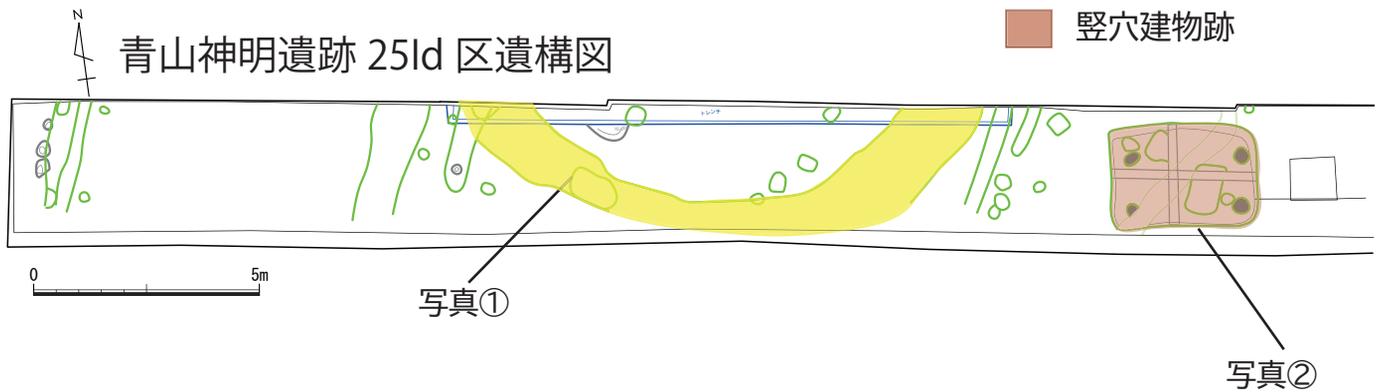
写真⑧ 井戸にまとめて捨てられた山茶碗

25J区では、井戸からまとめて遺物が出土することがあるものの、柱穴などの遺構から出土することはめったにありません。特に、確実に<sup>あすか</sup>飛鳥・奈良時代の遺構と認定できるものは限られてきます。そのかわり、製塩土器や粘土の塊など、かわった遺物が出土しています。

柱穴には大きかったり深かったりするものと小さいものがありますが、鎌倉時代・室町時代の遺物は小さい柱穴から出土します。飛鳥・奈良時代の大きめの柱穴から、鎌倉・室町時代の小さい柱穴への変化が確認できます。

# 25I区・O区の発掘調査成果

周溝墓の溝  
 竪穴建物跡



写真① 周溝墓完掘状況



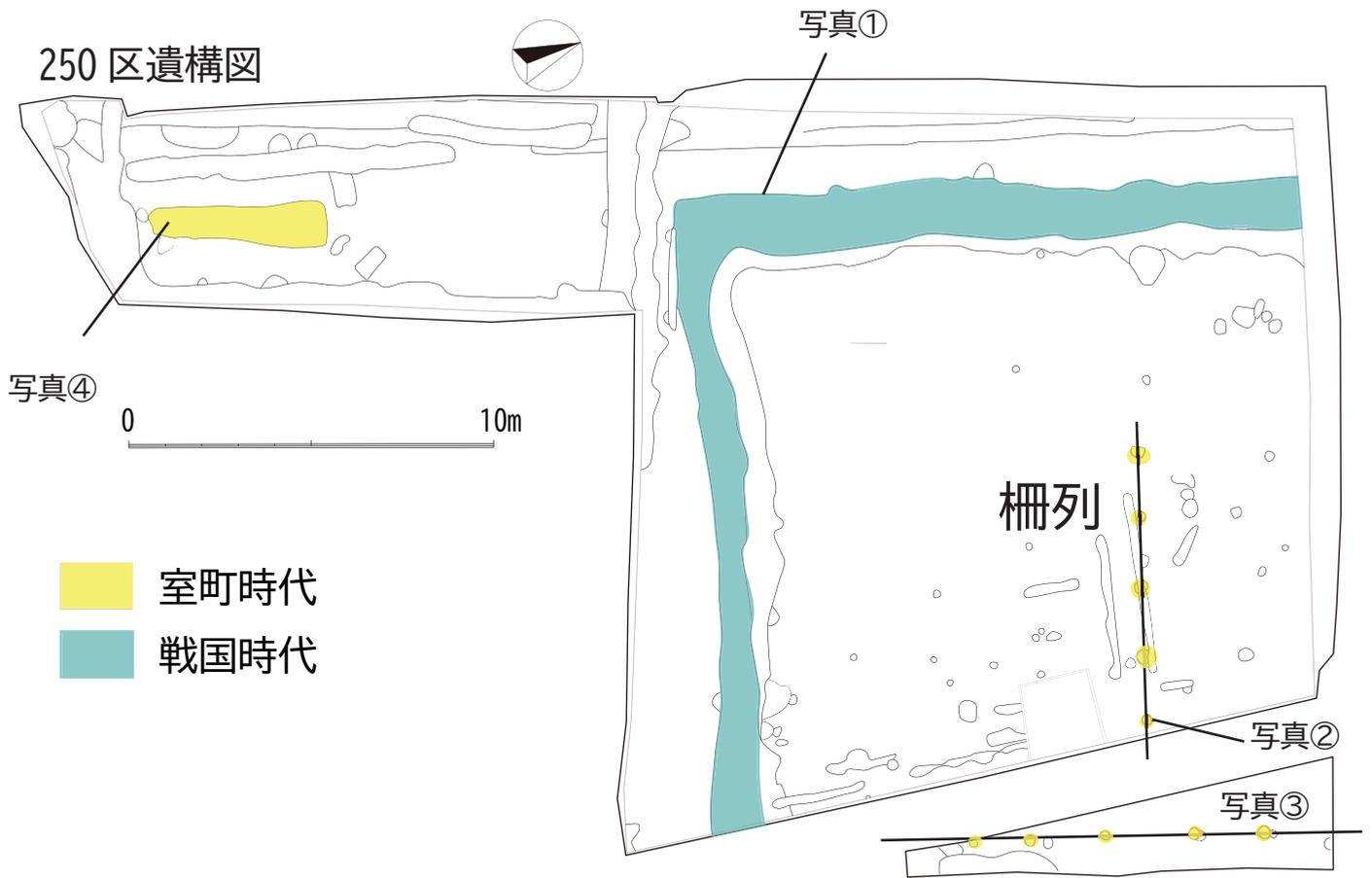
写真② 竪穴建物跡完掘状況

25I区と25O区は青山神明遺跡の南東側に位置しています。調査の結果、この南東部は遺跡のなかでも出土遺物が比較的少ないエリアとなっています。

25I区の主な遺構として、中央のId区で検出された竪穴建物跡、周溝墓、土坑などがあります。竪穴建物跡は調査区の南東側で確認され、形は約2.5×3mの隅丸長方形となっています。遺物が伴っておらず、時期を確定するにはさまざまな検討が必要です。周溝墓は一部調査区外に延びており、竪穴建物跡と同様に遺物が伴っていませんでした。土坑は周溝墓と重なるように確認され、古墳時代中期（1600年前）の須恵器の杯蓋つきぶたなどが出土しました。周溝墓には伴わない別の遺構と考えられ、逆にいえば周溝墓は古墳時代前期以前の可能性が高まります。

北側の昨年度調査区（24F区）から弥生時代の方形周溝墓、南側の豊山町の調査では埴輪はにわを伴う溝が確認されているので、南東側は弥生時代後期から墓域ほいきとなっていたと考えられます。

25O区の主な遺構として戦国時代の区画溝1条、柵列2列、土坑墓1基が確認されました。区画溝は調査区東側で東西方向に延び、調査区南西側で南北方向に折れて北側に延びていきます（図面参照）。遺物は灰釉丸皿などが出土しました。柵列は東西方向と南北方向にそれぞれ柱穴が5基並んでおり、そのうち東西方向の柱穴からは永楽通宝えいらくつうほう（室町時代の渡来銭）が出土しました。土坑墓は調査区南側で確認されました。平面形は隅丸長方形で、室町時代の灰釉四耳壺しじこや鉄釉瓶子てつゆうへいしなどが見つかりました。



写真① 区画溝完掘状況（戦国時代）



写真② 銅銭出土状況（室町時代）



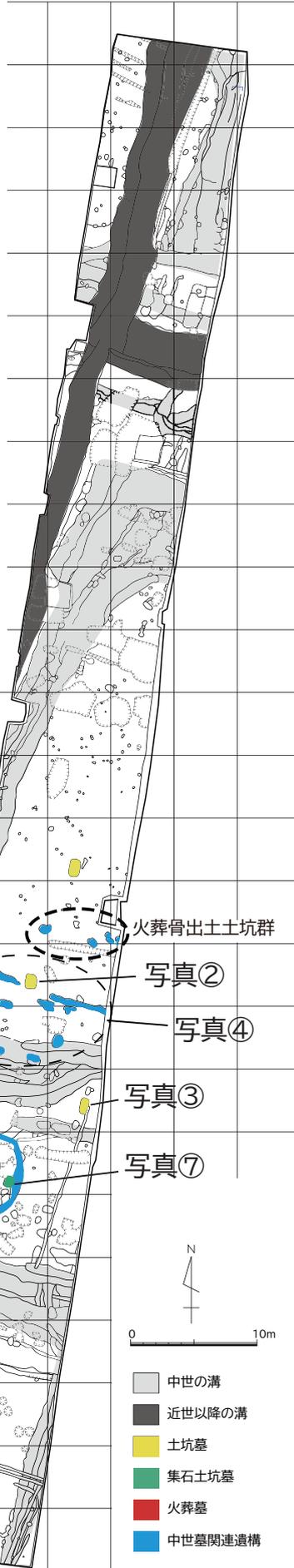
写真③ 柵列完掘状況（室町時代）



写真④ 土坑墓遺物出土状況（室町時代）

# 25H 区の発掘調査成果

25H 区では主に中世と近世の遺構遺物が確認されています。中世の遺構としては東西方向および南北方向の溝群が検出されました。また、墓域が展開し、中世墓および関連する遺構が確認されています。中世墓としては土坑墓 3 基、集石土坑墓 2 基、火葬墓 1 基があります。土坑墓からは底面から完形の山茶碗皿が出土しています。集石土坑墓からは骨片が出土しています。火葬墓からは骨片、焼土、炭化物と古瀬戸陶器が出土しています。遺構としては火葬骨が出土する土坑群、集石土坑墓を囲む周溝遺構などが検出されています。



写真① 25H 区全景（北より）



写真② 土坑墓（中世）



写真③ 土坑墓（中世）



写真④ 中世墓関連遺構（中世）



写真⑤ 火葬墓（中世）



写真⑥ 集石土坑墓（中世）



写真⑦ 集石土坑墓（中世）



写真⑧ 周溝遺構（中世）